

事務事業 No./名称	<input checked="" type="checkbox"/> サービス部門 健福-03 <input type="checkbox"/> 支援部門		社会福祉協議会支援事業				
主管課	福祉政策課	関連課					
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	社会福祉協議会が適切に運営できるように支援していく。						
人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考		
	人口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯			
事業の対象者数							
運営資源状況	決算値(千円)	63,749千円	67,008千円	63,822千円			
	(国・県)	0千円	0千円	0千円			
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円			
	(一般財源)	63,749千円	67,008千円	63,822千円			
	人員配置数	0.5人	0.5人	0.5人			
	人件費(千円)	4,487千円	4,626千円	4,597千円			
	協働のパートナー	無	無	無			
事務事業運営経費	総事業費(千円)	68,236千円	71,634千円	68,419千円			
	市民1人当りの経費(円)	385円	405円	388円			
	対象者1人当りの経費(円)						
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
		目標値					
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値					

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性 A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止
社会福祉協議会支援事業	63,749千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒ □A ■B □C □D □E
	事業の概要	社会福祉法の規定により地域福祉の推進を図る団体として組織されている社会福祉法人鎌倉市社会福祉協議会に補助金を交付する。		
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要			

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)				
H22年度の課題	自主財源の確保に向けた取組みが必要である。			
課題解決のための取組	社会福祉協議会が、自主財源の確保に向け、検討を進めた。			
未解決の課題	地域福祉の推進のため、その活動の充実が求められているが、市の補助金を増額していくことが難しい。			
今後の方針	社会福祉協議会が、事業の見直しを進め、補助対象事業を効率的に運営できるように、市としての支援を継続していく。			
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒ B	※ □事業完了	課長名 福祉政策課長 鈴木 善博

